

case

次代へ引き継ぐための居ながら耐震改修 1階に寝室を設け、安心・安全に暮らす



元の和室の雰囲気をそのままに耐震補強／ステンレス筋交いを用いたことで、開放感を妨げない（写真は両端の障子を内側へ引いた状態）

コンセプト

「築50年の住まいだが、安心して暮らしたい。そして、出来れば次の世代も住み続けられるように…また、気に入っている和室の雰囲気は残して耐震性を上げられないか？居ながらの工事は可能だろうか？」そんなご要望からスタートした改修計画。まずは【住まいの健康診断】を行い、建物の現状を知ることから。無筋の基礎で、耐震診断の評点は0.25。客間に使用していた和室を寝室利用することを想定し、和室廻りの壁や天井面を強化する補強計画を立て、結果として1階は1.0、2階は0.7以上へ耐震性を向上させました。また、耐震補強と併せて床・天井の断熱工事、窓の設置を行い、冬の底冷えする寒さや夏の蒸し暑さが無くなり健康的な室内環境に…床の小さな段差の解消や手摺の設置も行い、安心安全に暮らせる家となりました。

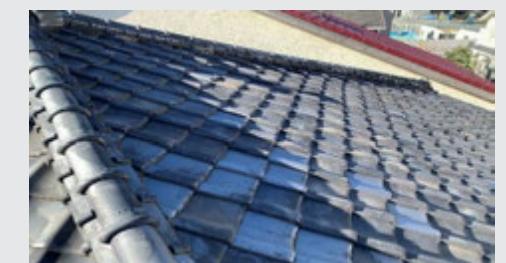
敷地建物

- 建築年：1974年（昭和49年）
- 改修年：2024年
- 家族構成：70代ご夫婦、ご子息
- 延床面積：133m²
- 工事箇所：1階：水廻りを除く、2階：一部内装やりかえ

条件等

主な仕様

- 屋根：瓦撤去→ガルバリウム鋼板横葺き
- 外壁：塗り替え
- 雨樋：交換
- 内装：無垢床板増張り、畳交換、左官塗り壁、クロス張替え等
- 設備：既存のまま



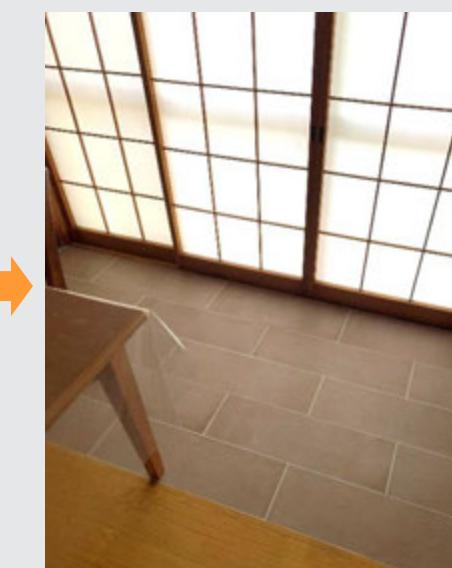
屋根を軽量化して耐震性を向上



アラミド繊維による、無筋基礎の補強



基礎補強のため部分的に解体が必要な床も…



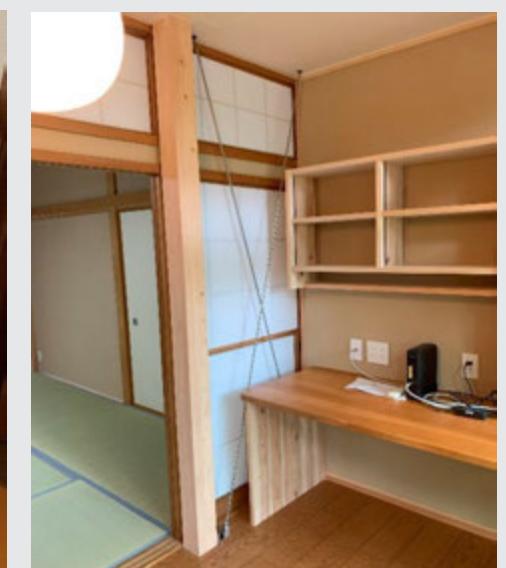
タイルで復旧すれば、雰囲気よく馴染む



押入の壁を空け、玄関から和室へ直通に



玄関の段差をベンチと手摺で安全に



造作した書斎コーナー／ヤマザクラの天板